

かわせみ

Hachioji
Kawasemikai

Kawasemi



1990.2

NO. 4

190 Kameiai

八王子カワセミ会・発行

カワセミ 第4号 目 次

☆ 第2回八王子カワセミ会総会開催	1
☆ 定点・定期カウント集計結果	3
☆ 平成元年八王子カワセミ会十大ニュース	13
☆ 鳥 信	14
☆ 平成元年浅川流域のイワツバメ調査	16
☆ 昭和最後の浅川のユリカモメ	18
☆ あなたは何種の鳥を見ましたか	19
☆ ジャコウアゲハの親子	21
☆ 多摩川河口探鳥会	22
☆ 宿泊(テント)探鳥会	23
☆ 我が家の庭に珍客が訪れた	23
☆ 会報「カワセミ」を知って	24
☆ 浅川に何とハヤブサが来た	26
☆ 伊豆沼探鳥紀行	27
☆ 私のヨーロッパ紀行「鳥について」	29
☆ ツバメの渡り	30
☆ チョッピーリ覚えました	31
☆ 年末大晦日探鳥会	32
☆ 「鳥の歳時記」	33
☆ 編集後記	34

第2回八王子カワセミ会総会 開催

——本年度事業計画，規約改訂など可決——

1990年（平成2年）1月14日（日），八王子カワセミ会の総会が八王子市天神町会館において午後2時から開催されました。

今回の総会は、前年度までの当会の活動状況等を踏まえて、今後の会の在り方、進べき方向を展望し、組織の一層の充実と円滑な運営をはかる為会員資格の明確化などの規約改訂と今年度事業計画が上提され、全員一致で可決されました。

主な内容は次の通りです。

- (1) 前年度事業報告の承認
- (2) 前年度会計報告の承認
- (3) 本年度事業計画の審議・可決 ※ 別記参照
- (4) 規約の改訂
 - ① 会員資格の明確化と年会費制の導入
 - ② 役員規定の改訂と会計年度の明示
- (5) 役員改選

規約改訂により、次の方々が幹事として、選任されました。

粕谷和夫、藤江 豊、斎藤高昭、門口一雄、榎沢 努、三好恒雄、木村晴美、平沢辰夫、阿江範彦、以上9名。

会計監査人には田中英吉さんが選任されました。

なお、幹事の互選により役職ならびに業務担当が、次のとおり決まりました。

・会 長	粕谷和夫
・副 会 長	藤江 豊、斎藤高昭
・業務 担当	
事 務 局	門口一雄
会 計	榎沢 努
会 報	三好恒雄

会議では、出席者の活発な討論があり、いろいろ建設的な意見、提案が出されるなど大変有意義な総会でした。

終了後、当日実施したガン・カモ調査の集計を行いました。カウントされた鳥は50種、9538羽という結果となりました。

なお、総会当日現在、28名が会員として申し込み、登録されました。

※、1990年(平成2年)の事業計画

(1) 探鳥会

月-日	浅川・浅川周辺	その他
2-4	公開：浅川(松枝橋～鶴巻橋)	
3-4	公開：浅川(大和田橋～長沼橋)	
4-8		多摩川(滝山城跡下)
4-22		三頭山(三頭沢)
5-6	北浅川(恩方中学～陵北大橋)	
5-26・27		朝霧高原
8-25・26	高尾山周辺キャンプ	
9-2		おびつ川河口(千葉県)
11-18	公開：浅川(大和田橋～長沼橋)	
12-16	片倉城跡公園(巣箱掃除)	
12-31		印ば沼(千葉県)

(2) 定点、定期カウント(地域ならびに担当者)

[1]	多摩川(滝山城跡下)	大今粕三穂倉門阿藤平川	田井谷好沢藤口江江沢上	真郎夫雄 昭雄彦 田中英吉
[2]	浅川(大沢橋～陵北大橋)			達和恒 努 豊 夫
[3]	陵北大橋～松枝橋			高 一 範 辰 志
[4]	松枝橋～鶴巻橋			
[5]	鶴巻橋～大和田橋			
[6]	大和田橋～長沼橋			
[7]	長沼橋～一番橋			
[8]	一番橋～多摩川合流点			
[9]	小宮公園			
[10]	片倉城跡公園			
[11]	ヒメアマツバメ(東浅川)			

(3) 各種調査活動

前年度計画に新たに・ハクセキレイ集団ねぐら調査が加わる。

(4) 催し物、その他

- ① 第2回総会(1月14日)
- ② 榎原中学校PTA探鳥会への協力、支援(1月28日、浅川)
- ③ 「八王子市の鳥」の制定に関する請願活動の推進
- ④ 浅川の野鳥展開催(4月29日、市内)
1月14日の総会において、幹事その他、今井、福島の両氏を加え11名で実行委員会を設置

(5) その他、浅川の鳥信情報の収集と連絡網の設置

(6) カワセミ第4号(2月予定)、第5号(8月予定)の発行

◇定点、定期カウント集計結果◇

当会が行っている浅川を中心とした6カ所の平成1年7月から12月迄の定期カウント（毎月1回）結果は次の通りです。

	浅 川			小 宮 公 園	片倉城跡 公 園	多摩川 滝 山 城跡下
	松枝橋 鶴巻橋	浅川橋 大和田橋	大和田橋 長沼橋			
担当者	三 好	野 田	斎 藤	榎沢田中	平 沢	門 口
7 月	28種	22種	24種	16種	20種	30種
8 月	25	21	28	15	16	30
9 月	22	16	31	12	19	28
10 月	28	17	29	15	21	35
11 月	31	25	39	22	29	37
12 月	30	25	39	19	31	39

それぞれのカウント地における希少種の出現状況、特記事項等は次の通りです。

1. 浅 川（松枝橋～鶴巻橋）

- (1) アマサギ 9月1羽
- (2) オカヨシガモ 10月2羽
- (3) キアシシギ 7月2羽
- (4) タ シ ギ 10月1羽、11月1羽、12月1羽
- (5) ユリカモメ 10月20羽、松枝橋よりさらに上流へ通過したが、5分後に引き返す。
- (6) オシドリ 出現無し
- (7) その他 12月、中央高速架橋をはさんで兩岸、清川グランド側及び松枝橋北側の河原は草が刈られ且つ焼かれてしまった。

2. 浅 川（浅川橋～大和田橋）

- (1) ササゴイ 7月2羽、8月2羽
- (2) オオヨシキリ 7月2羽、8月1羽
- (3) オ ナ ガ 7月3羽、8月2羽、9月2羽、10月2羽、12月3羽

◇定期カウント集計結果◇ (続き)

3. 浅川 (大和田橋～長沼橋)

- (1) アマサギ 10月1羽
- (2) アオサギ 12月2羽
- (3) クロトキ 10月2羽
- (4) ミコアイサ 12月8羽
- (5) キアシシギ 8月15羽
- (6) タシギ 9月1羽、11月1羽、12月2羽
- (7) セグロカモメ 11月3羽、12月2羽
- (8) コムクドリ 9月2羽 (大和田橋下流ニセアカシア♂♀)
- (9) カケス 10月11羽
- (10) その他 8月、中央線鉄橋近くの雑木林切り払われる

4. 小宮公園

- (1) カワセミ 10月1羽
- (2) アオゲラ 8月1羽、9月1羽
- (3) ヤマガラ 11月2羽
- (4) カケス 9月3羽、11月1羽

5. 片倉城跡公園

- (1) ゴイサギ 7月1羽
- (2) チョウゲンボウ 12月1羽 (ホバリングする)
- (3) ユリカモメ 12月2羽
- (4) アオゲラ 10月1羽、12月1羽
- (5) アカゲラ 11月1羽 (♂)
- (6) ノビタキ 9月1羽
- (7) シロハラ 12月1羽
- (8) ヤマガラ 9月2羽、12月3羽

6. 多摩川 (滝山城跡下)

- (1) ミコアイサ 12月10羽
- (2) バン 7月4羽
- (3) ハマシギ 10月6羽、12月50羽 (例年より少ない)
- (4) クサシギ 10月2羽
- (5) セグロカモメ 10月1羽
- (6) ウミネコ 10月1羽
- (7) アマツバメ 10月5羽
- (8) コムクドリ 8月1羽。 (9) 10月ツバメの渡り5群通過

平成1年の定期、定点カウント記録

1 浅川（松枝橋～鶴巻橋）

月 時 間	日 帯	0115 650- 1010	0302 700- 1000	0326 630- 0940	0429 650- 0920	0530 600- 0830	0630 700- 0930	0731 630- 0930	0831 615- 0900	1002 630- 0930	1102 630- 0945	1121 630- 1000	1228 800- 1130
天	気	晴	曇 晴	晴	晴	晴	曇	曇	晴	曇	晴	晴	晴
052	イサギ	20				4	2	9	8	1			
054	ササギ						2	2	2				
056	アマギ									1			
059	コサギ	7	4	7	5	4	1	2	3	7	3	6	4
087	マサギ		2	2									3
088	カサギ	56	35	52	39	26	35	39	2	28	33	30	48
089	コサギ	87	58	50	7					15	45	60	125
092	オサギ										2		
093	ヒドリ	17	8									1	20
095	オサギ	44	4										15
120	トビ			1		1	3	2			2		
149	コジュケイ								1		1		
151	キジ		1	1	6	2	1						
176	コサギ						2	1					
177	イカル	2	4	1	2	1	4	6	3		5	2	
217	キアシ							2					
218	イサギ	1	3	2	4	3	1	2		3	3	2	2
230	タビ	5	3	4	1						1	1	1
245	コサギ	30									20	40	12
296	キジ	20	20	15	14	10	27	21	29	24	27	30	37
319	ヒメマサギ		3										
326	カサギ	2	1	2	1			1	1			1	
339	コサギ			2									
344	ヒバリ		4	2	4	6	2	1			2		
347	ツバメ				43	56	57	70	38	2			
350	イサギ			5	24	30	25	25					
354	キセキレイ	3	1	2	1		4	8	3	5	9	7	5
355	ハウセキレイ	11	11	24	2		4	5	4	5	17	22	16
356	セキレイ	30	16	12	17	6	12	30	16	19	19	26	26
363	ヒバリ	16	6	9								6	4
367	ヒドリ	28	20	20	20	17	26	13	28	28	32	34	43
369	モズ	1	3	2	1		1	2	1	5	3	4	2
374	ヒレンジャク			6									
387	ジョウビタビ		1	2							7	7	3
405	ツグミ	62	25	35	8							12	47
410	ウグイス	1	1	4			1					1	1
416	オサギ					5			5				
425	セッカ				5	7	4	5	4	2	2	2	
441	シジュウカラ	2	2	2	4	2	6	4	14	4	6	10	6
449	ホオジロ	52	60	33		2	1					50	37
455	カサギ	57	12	2							2	6	33
461	アジ	2	1	1							2	5	8
464	オジュリン		1										
471	カアサギ	145	70	20	4		30	6	61	35	105	100	140

平成1年 浅川 (松枝橋~鶴巻橋)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
485 丸								8				
486 シ	4		1								2	4
488 スメ	230	100	100	80	80	60	100	90	80	80	80	100
493 ムドリ	61	50	60	51	42	48	95	58	75	36	40	175
498 木		25		5		3	8	2	5			
503ハンボガラス	14	14	20	8	6	11	10	27	23	15	18	40
504ハンボガラス	5	13	6	8	2	4	7	15	3	2	8	3
B 下	30	10	10	8	19	60	15	25	20	10	11	26
計(種)	31	35	35	27	22	29	28	25	22	28	31	30

2 浅川 (浅川橋~大和田橋)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月時	日帯	0128 700- 0930	0226 1230 1500	0325 700- 0930	0429 630- 0900	0527 520- 0800	0701 550- 0900	0701 550- 0900	0812 600- 0830	0910 620- 0815	1001 615- 0800	1112 730- 0930	1203 750- 0910
天	気	晴	晴	晴	晴	晴	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴
052	イ					4	6	6	3	2	1		
054	サ				1	2	2	2	2				
059	コ	2	5	3	4	5	3	3	3	3	6	5	5
087	マ		2										
088	カ	25	30	35	35	25	30	30	53	35	40	50	40
089	コ	70	23	20	10						13	25	80
093	ヒ	17	14	10								8	10
095	ナ	100	45	30								50	30
120	ト				1								
159	シ			1	2		1	1					
176	コ						1	1					
177	カ		2		4	5	4	4	5			2	
214	ク				2								
218	イ												
245	コ	110	30	20								30	50
296	キ	15	20	35	8	20	13	13	9	10	12	10	10
326	カ								1			1	1
344	ヒ				2								
347	ツ			5	20	30	20	20	25	2			
350	イ				60	50	40	40	10				
354	キ	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2
355	ハ	7	3	5	2	2	2	2	5	2	3	2	10
356	ヒ	13	15	10	15	13	7	7	7	7	15	25	30
363	タ		1									2	2
367	ヒ	10	20	13	10	10	20	20	10	10	7	13	30
369	モ	2	2								1	2	2
387	シ	2										2	2

平成1年 浅川 (浅川橋～大和田橋)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
405 ッグミ	25	25	2								3	3
416 材玉ササ					2	2	2	1				
441 ショウカラ	4	4	5	6	4	7	7			3	5	3
449 材和	13	7										
455 カシラカ											2	4
471 カラビリ	70	20	10	4	6	3	3	30	3		10	20
488 スズメ	30	30	30	35	30	20	20	50	30	35	50	70
493 ムクドリ	27	10	35	20	10	30	30	20	5	20	30	40
498 オカ		3	2	2	2	3	3	2	2	2		3
503ハシトガラス	3	3	3	4	3	4	4	5	4	1	7	10
504ハシトガラス	10	15	15	10	13	7	7	10	2	10	10	7
61 アオジ	2											
B ドバト	30	45	30	30	40	30	30	70	50	60	40	70
計(種)	23	25	22	24	21	22	22	21	16	17	25	25

3 浅川 (大和田橋～長沼橋)

月 日 時 間 帯	0115 800- 1100	0205 705- 1020	0320 615- 0910	0409 710- 1150	0521 521- 0825	0625 711- 1119	0723 550- 0830	0813 700- 1105	0917 630- 0930	1010 730- 0915	1119 650- 0930	1230 746- 1045
天 気	曇	晴	晴	晴	曇	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴
005 カイツリ	2											
052 ゴイサギ				1	5	16	13	29	10	9	2	1
056 アマガサ										1		
057 タイサギ	8	2				1				1	3	7
058 チュウサギ		1								1		
059 コサギ	22	18	7	8	2	2	5	4	4	7	3	8
062 アオサギ		1	1									2
069 クロトキ										2		
087 マサギ					2	1						
088 カサギ	54	32	104	128	72	67	95	76	63	79	52	53
089 コサギ	315	139	243	182					7	163	210	237
092 カサギ	2											
093 ヒドリサギ	124	126	101	2							46	99
095 オナガサギ	173	78	6	4						5	57	124
097 ハシビロサギ	16	6	10	2							7	7
115 ミコアイサギ	11	14										8
120 トビ		2	1	1	1	2		1	1	1	1	1
149 コジュケイ		4		1	2		1					
151 キン		1	1	5	5	3	2	4	2	3	2	
176 コサギ				2	2	2						
177 イカルサギ	1		4	3	9	4	2	2	10	12	8	11
196 ハマサギ	5	12										
217 キアシサギ					8			15				
218 イサギ	5	6	2	11	5	7	6	4	14	5	1	5

平成1年 浅川 (大和田橋~長沼橋)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
230 タシ		2	2	2					1		1	2
245 ヲカモ	143	134	15		1						190	211
246 セグロカモ		1									3	2
296 キジト	38	25	36	32	29	31	27	23	17	35	42	35
326 カシメ	1	2	2			1	1	1	1	1	1	1
339 ヲダ				1	1	1		4				
344 ヒバリ	12	9	9	4	7	4			2	7	2	2
347 ツバメ			5	13	35	58	32	55	4			
350 イワツバメ			3	23	68	47	17	3				
354 キセキレイ	3	2	1	1				5	10	3	4	4
355 ハクセキレイ	18	22	23	9	3	3	3	1	10	11	22	23
356セグロセキレイ	22	17	5	6	1	1	7	8	12	12	4	14
363 タヒバリ	39	39	32	23							15	24
367 ヒヨドリ	8	16	7	17	15	22	10	8	27		19	26
369 エズ	2	4	4			2	2		4	7	6	2
387 ショウビタキ		2	4	1							7	6
405 ツグミ	47	48	56	34							3	37
410 ウグイス			3	2							1	3
416 オオシキリ					2	3	1	3	1			
425 ヒツカ	1		1	2	8	6	4	3	3	1		
441 シジュウカラ		2	2	3	2	2		8	4		2	9
444 メジロ			2					2				
449 ホシジロ	63	82	34	2							11	34
455 カシラダカ	85	55	17								20	31
461 アオジ	3	7	6	5							5	15
471 カワラヒワ	24	33	11	4	4	46	11	6	15	52	145	70
485 イカル									8	10		
486 シメ			3	1							1	
488 スズメ	100	121	130	120	110	110	90	100	170	150	190	150
490 ムクドリ									2			
493 スズドリ	57	42	43	37	21	45	22	10	7	36	17	42
496 カス									1			
498 オガ					6	3	7	10	15	25		
503ハンボリガラス	10	12	7	2	8	13	14	4	10	5	15	8
504ハンボトガラス	2	7	2	4	3	5	4	5	2	12	14	7
A アヒル				1					2		4	2
B ドバト	39	31	47	34	48	55	26	35	27	27	53	45
C セキセイインコ						2						
計 (種)	34	39	40	39	30	31	24	28	31	29	39	39

4 小宮公園

39

小宮公園 平成1年の記録

月 時 天	日 間 気	0121 730- 0920 晴	0227 730- 0915 晴	0320 730- 0910 晴	0420 700- 0850 晴	0525 730- 0920 曇	0629 620- 0815 晴	0722 730- 0920	0822 725- 0940 晴	0929 700- 0840 曇	1021 730- 0940 晴	1123 730- 1000 薄曇	1229 730- 1000 晴
059	コキ								1			1	2
088	加旆	2	2	2									2
089	コキ		4										
129	ノリ				1								
149	コシクイ		1	5	6	5	3	1				1	1
151	杉			1	4	4	2						
296	杉バト	14	7	8	6	5	3	7	5	14	7	8	21
326	カキミ										1		
331	アサ								1	1			
336	アカサ				1		1						
339	コサ	2	3	7	2	2	2		5	5	2	2	5
344	ヒヨ	1	5	3	3	4	6				1	1	
347	ツバ				5	13	24	14	5				
350	イツバ					1	5	5					
354	キキレイ						2	1			5	1	
355	ハクセキ	2								2	2		
367	ヒヨドリ	11	12	9	38	28	26	24	21	17	40	30	23
369	モズ	2	1	4						2	4	3	3
387	ジョウビタキ		2	1								1	2
405	ツグミ	12	18	29	26							4	16
410	ウグイス		1	1	1								
425	セッカ							1			1	1	
435	エナガ						3						
440	ヤマシ											2	
441	ジュウカ	23	23	34	28	22	16	22	18	30	23	25	40
444	メジロ				4			7	6	5	3		
449	ホト		5	3			2						5
455	カシ	5	20	15								40	300
461	アサ			1									
471	カラ	28	65	12	7	16	13	27	1			40	85
485	ワカ							1	2				
486	シ	5	3									5	8
488	スズメ	70	30	118	60	70	70	60	30	20	30	60	30
493	ムクドリ	46	33	47	17	15	42	100	12		7	25	75
496	カス		2	3						3		1	
498	オガ							1	10			2	
503	ハシボ	7	6	13	7	5	5	9	5	11	7	7	9
504	ハシバ	2	4	7	5	3	2	3	3	7	4	6	7
B	バト												20
計		16	21	21	18	14	18	16	15	12	15	22	19

5 片倉城跡公園

月 時 天	日 間 氣	0103 930- 1140 晴	0221 930- 1200 曇	0321 630- 0900 晴	0429 600- 0730 晴	0527 700- 0830 晴	0621 730- 0900 曇	0715 700- 0900 曇	0820 710- 0930 薄曇	1001 730- 0930 晴	1028 730- 0900 晴	1119 720- 1030 晴	1217 700- 0920 晴
052	ゴイギ			1				1					
059	ゴギ	2	2	1		2							2
088	カガ	2	2	2	2	5	1	5	1	2	1	2	2
089	コガ	1	6	6								10	11
095	オガ	6	4										
120	トビ		1									2	
145	チョウゲンボウ			1							1		1
149	コジュケイ		2		3	2	2	2		2			
151	キ			1	3								
245	ツカモメ	1											2
296	キジト	6	3	5	5	6	3	7	3	7	5	4	8
319	ヒメアマツバメ				1								
326	カサシ	1	1	2	1							2	2
331	アゲ	1		1	1	1					1		1
336	アゲ											1	
339	コガ	2	2	4	4	2		2	2		2	3	6
344	ヒヨ				2	1							
347	ツバメ				17	12	18	8	9				
350	イワツバメ							2					
354	キキレイ	1				2	1	1		2	4	2	2
355	ハクセキレイ	2		1							2	3	
356	セグロセキレイ	3	3	1	3	3	3	3	3	3	5	6	3
363	タビ	1	1										2
367	ヒヨドリ	13	18	9	50	16	18	18	16	24	23	17	18
369	モズ	1	2	2						3	5	3	2
386	ショウビ	3		1						1	2	3	2
388	ビタキ									1			
402	シロハラ												1
405	ツグミ	10	12	8	8							2	6
410	ウグイス	2		8	6	2	2				1	5	3
435	エガ		15	6			6	6	6			6	18
440	ヤマガ									2			3
441	シジュウカラ	19	26	17	12	7	8	8	9	21	7	16	16
444	メジロ	2			2			4	18	4	3	4	12
449	ホシ	2	8		1							3	8
455	カラス	1	5	25								2	6
461	アジ	6	6	7	2							4	5
471	カラヒ		32	37	2		50	4	8	12	6	11	27
485	カ			2									
488	スズメ	9	50	16	15	16	42	23	23	18	22	23	6
493	ムクドリ	4	20	6	7	22	30	6	6	6	8	8	12
498	オガ	16	5		8	8	4	2	7	5	6	5	4
503	ハシロ	2	10	4	4	6	3	3	4	8	7	7	5
504	ハシロ	1		2	1							2	
A	アヒル	4	1	4	3	4	4	3	3	3	3	3	3
B	ドバ	4	2	1	2		1	2	2	2		4	2
計(種)		30	26	29	27	17	17	20	16	19	21	29	31

6 多摩川 (滝山城跡下)

月 時 天	日 間 気	0102 715- 0925 晴	0219 930- 1210 晴	0325 900- 1130 晴	0426 630- 0910 晴	0527 900- 1200 曇	0625 1300- 1530 晴	0722 800- 1100 晴	0820 800- 1100 晴	0916 700- 1100 曇	1021 830- 1130 晴	1111 845- 1145 晴	1209 900- 1200 晴
005	カツヲ	19	8	9	4	5	4	2	3	1	6	13	9
054	サゴイ						3		1				
057	タイギ	1										1	
059	コギ	1	2	2	2	1		1	2	2	6	2	7
062	アサギ	2		2	1					2	3		5
087	マギ	2	2								29		
088	カガ	20	17	23	28	25	17	22	2	10	15	31	41
089	コガ	55	50	25	42		1			3		27	42
091	ヨギ	5	7	2									
092	カヨギ	20	2	5								5	16
093	ヒドリ	55	41	10								7	29
094	アサカヒドリ		1										
095	オカガ	72	7								3	1	6
097	ハシロガ	15	17	16									4
115	ミコアイ	15	1	2									10
120	トビ	1		1	1	3	1	2	3		1	1	
129	ノリ							1					
145	チョウゲンボウ										1		
149	コジュケイ		1	3	5	3	1	4	5	1	1	2	1
151	杉				6	4	2	1	1	1			2
167	ク				2			4					
176	コドリ				1	1	1	3					
177	イカルドリ	7			1	1	2	8		5	1		6
196	ハマシ	145	150	100	73		1				6		50
214	クサシ				1						2		
217	キアシ					8			3	5			
218	イツシ	7	3	2	7	1	3	8	5	5	4	5	1
230	タシ	1			2								
245	ウカガメ	35	10	3	5							13	41
246	セウカガメ	1										1	
251	ウネ			2							1		
271	コアシ					2							
296	キジバト	10	2	3	10	2	4	1	7	3	6	4	10
302	カウ						1						
320	アマツバメ										5		
326	カガミ	1	1	2	1	2		1	1	1	2	2	1
344	ヒバリ	4	1	5	8	10		2	2		1	2	1
347	ツバメ				3	4	10	5	19	18	25		
350	イワツバメ				2						35		
354	ヒキ					1	1	11		1	5	2	
355	ハクシ	4	3	5	3	4			2	2	9	15	5
356	セウシ	10	7	4	6	6		4	2	7	17	15	14
363	クビ	9	1	3			3					9	2

平成1年 多摩川 (滝山城跡下)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
367 ヒヨドリ	6	3	9	11	11	7	6	14	6	30	8	17
369 モズ	5	1	2	4	3	2	1	1	1	8	7	6
387 ショウビタキ	2	1	1								1	1
405 ツグミ	12	35	35	21							5	10
410 ウグイス	1		3	3	2						1	2
416 オオヨシキリ					9	10	8	6	2			
425 セッカ	2			7	6	5	8	3				
441 シジュウカラ		2		2			2	4	2	3		2
449 ホトトギス	32	13	3	12	7	5	7	6		8	8	6
455 カシラダカ	17	9	5								2	17
461 アオジ	21	11	3	2							3	9
471 カワラヒワ	35	28	2	4	2	5	15	15	10	27	107	42
486 シメ	41										1	1
488 スズメ	50	30	30	18	21	20	23	18	200	55	46	16
490 コムクドリ								1				
493 ムクドリ	3	25	8	2	11	4	39	100	5			2
496 カス										1	1	
498 オナガ	5				6	2		3	6	12	3	
503ハシボソガラス	10	50	20	25	14	11	17	5	13	24	25	17
504ハシブトガラス	11	7	10	7	2	5	6	3	7	7	3	14
A アヒル	5	3	2	4	4	4	4	6	6	6	6	5
B ドバト		20	2	2	2	10	8	9	12	2	1	2
計(種)	43	37	37	38	32	30	30	30	28	35	37	39

平成元年 八王子カワセミ会 10大ニュース

- ◎ 第1回総会を開催
 - 1月15日、八王子市天神町会館で開催。当会が昭和60年に結成されてから4年目で、総会を開けるグループに成長した。—
- ◎ 止まらない浅川の開発
 - ①JR中央線鉄橋上流側の雑木林の伐採 ②中央高速道上流側の右岸河原のブルドーザーによる破壊 ③川口川の大規模な河川改修等の鳥の貴重な生活の場が破壊されてしまいました。
- ◎ 「浅川の鳥、基本50種」を発刊
 - 公開探鳥会参加者への配布用として作成。浅川で、普通に見られる鳥50種を選んで、野外での見分け方を図入りで簡潔に説明した資料。読売新聞多摩版に載り、方々から問い合わせがありました。
- ◎ ヒレンジャク、オオタカ、ハヤブサ、ホオアカ、ツバメチドリ等出る
 - いずれも浅川の河原やその付近で観察したものです。—
- ◎ ハクセキレイの集団ねぐら2ヶ所を発見
 - 浅川のハクセキレイのねぐらを遂に見付けました。八王子市横山町の国道20号と16号の交差点の一角と同市北野下水処理場分場前—
- ◎ コゲラの町中への進出、2ヶ所で繁殖に成功
 - 八王子市大和田町1丁目及び同町7丁目の2ヶ所。 いずれも小さな公園の中です。—
- ◎ 片倉城跡公園に巣箱を設置
 - 1月29日に会員手作りの巣箱を16箱据付、その後利用状況調査を続け、12月には巣箱の清掃をしました。
- ◎ 八王子市内に、ハイタカ、アリスイ出現
 - 会員の川上さん宅の庭にハイタカが出たことは、会報3号に載っていますが、10月には、同じく会員の井上巳知雄さん宅の庭にアリスイが出ました。—
- ◎ ツグミのバフ変を発見、日本野鳥の会の公式記録に認定される
 - (八王子市以外の出来事) 2月11日、カワセミ会で名古屋へ探鳥会を実施した際、岐阜県揖斐川の河川敷き牧草地で発見、会員の平沢氏が撮った写真を日本野鳥の会に送り鑑定を依頼したところ、バフ変と認定され、平成2年1月号「野鳥」誌に掲載されました。—
- ◎ 年末探鳥会でコクガンを観察
 - 12月31日、恒例となった年末探鳥会を房総半島で行いましたが、当日、野島崎付近の海でコクガンを1羽観察しました。—

鳥信 鳥信 鳥信 鳥信

このコーナーは、平成1年7月から12月まで浅川流域で確認された鳥情報の内、初認、繁殖、希少種などを紹介するコーナーです。

()内は確認者、鳥名のアンダーラインは探鳥会、定期カウント等で確認されたものです。

1. 冬鳥の初認

・コガモ	9月17日	浅川、中央線鉄橋上流側	7羽	(斎藤高昭)
"	9月24日	浅川、浅川大橋上流側	4羽	(小山万太郎)
"	9月30日	浅川、大和田橋上流側	10羽	(榎沢 努)
・オカヨシガモ	11月18日	浅川、八高線鉄橋下	1羽	(小山)
・オナガガモ	10月10日	浅川、中央線鉄橋付近	5羽	(斎藤)
"	10月18日	浅川、浅川大橋～水菅橋	4羽	(榎沢、小山)
・タシギ	9月17日	浅川、八高線鉄橋下流側	1羽	(斎藤)
・モズ高鳴き	9月16日	浅川、大和田橋～八高線鉄橋	1羽	(粕谷和夫)
・ジョウビタキ	10月21日	八王子市北野台	1羽	(平沢辰夫)
"	10月22日	浅川、中央高速道橋付近	2羽	(粕谷)
"	10月24日	浅川、浅川大橋付近	1羽	(斎藤)
"	10月24日	浅川、浅川大橋～水菅橋	♂1羽	(榎沢)

2. 繁殖の情報

・ツバメ	平成1年	浅川、浅川大橋の橋ゲタに営巣	(榎沢)
・トビ	10月3日	浅川、萩原橋下流側の保育所前の送電線にとまって、親鳥が幼鳥にエサを与える	(福島弥四郎)

3. 希少種などの出現

・アマサギ	10月2日	浅川、松枝橋～鶴巻橋	1羽	(三好恒雄)
"	10月8日	浅川、中央線鉄橋～長沼橋	1羽	(探鳥会)
・アオサギ	12月30日	浅川、大和田橋～長沼橋	2羽	(斎藤)
・クロトキ	10月8日	浅川、中央線鉄橋下流側	2羽	(探鳥会)
・ハヤブサ	10月8日	八王子市明神町NTT高層アンテナ上	1羽	(探鳥会)
・チョウゲンボウ	12月17日	片倉城跡公園	1羽	(平沢)

3. 希少種などの出現 (前頁より続き)

- ・ツバメチドリ 7月2日 浅川、二番橋架設地 (日野市高幡) 1羽
(門口一雄)
- ・セグロカモメ 11月19日 浅川、大和田橋～長沼橋 3羽 (斎藤)
- " 11月29日 浅川、浅川橋～大和田橋 1羽 (椋沢)
- " 12月30日 浅川、大和田橋～長沼橋 2羽 (斎藤)
- ・アリスイ 10月15日 八王子市散田町 1羽 * 写真有り
(井上已知雄)
- ・アカゲラ 11月19日 片倉城跡公園 1羽 (平沢)
- ・カワガラス 11月19日 北浅川、東大沢橋付近 1羽 (粕谷、今井達郎)
- " 11月19日 北浅川、川原宿大橋付近 1羽 (粕谷、今井)
- ・ノビタキ 10月1日 湯殿川、片倉城跡公園 1羽 (平沢)
- " 10月8日 浅川、大和田橋～中央線鉄橋 1羽 (探鳥会)
- ・シロハラ 12月17日 片倉城跡公園 1羽 (平沢)
- ・ヤマガラ 10月1日 片倉城跡公園 2羽 (平沢)
- " 12月17日 片倉城跡公園 3羽 (平沢)
- ・コムクドリ 9月17日 浅川、大和田橋下流側ニセアカシアに♂♀2羽
(斎藤)
- ・カケス 10月10日 浅川、中央線鉄橋付近 1羽 (斎藤)

4. その他

- ・ハクセキレイの集団ねぐら
10月22日 八王子市 * 北野下水処理場分場前 (斎藤)
- " 11月8日 八王子市横山町3丁目 * 高倉カメラ店前の三角
広場のヤマモモの木 (田中英吉)
- ・ツバメ終認 10月2日 浅川、鶴巻橋上流清川公園上空 2羽 (三好)

「お願い」

平成2年1月から6月までの「浅川の鳥信」は次号(第5号)に掲載します。この間の ①夏鳥の初認、②繁殖の情報、③希少種などの出現、④その他の情報は、随時、粕谷宛メモにてお知らせ下さい。
緊急を要する場合には、電話でお願いします。

平成元年の浅川流域におけるイワツバメの営巣状況

——大和田橋から曉橋へ中心が移動か——

浅川流域のイワツバメ調査は、昭和62年から毎年行っており、平成元年は5月から7月の間に行いました。

調査方法は、調査対象地域を浅川流域全域とし、ここを本支流別に区分し、各調査区域内のコンクリート建造物を中心に、イワツバメの営巣の有無を調べ、そこで営巣を確認した場合に巣の数をカウントすることとしました。

この調査は、5月から7月の間に2回行い、今年利用している巣の数が2回の内、多かった方をその場所の営巣数としました。

結果は次表の通りですが、昨年までの調査結果と比べ変わった点など、主なポイントは下記のとおりです。

- ① 全体的には、営巣地数17ヶ所、全営巣数219と昨年までとそれ程大きな変化はなかった。
- ② 大和田橋が昨年まで大きな営巣地であったが、この年は2つ上流側の曉橋（ここは昭和63年から営巣を始めた）での営巣が急増した。
- ③ 南浅川流域の八王子工高体育館と湯殿川東橋で新たな巣が確認された。
- ④ 南浅川流域の東浅川・沖電気前（京王高尾線高架下）のイワツバメの巣は、ヒメアマツバメに完全に乗っ取られており、この年も、2巣が確認されたが、夏以降はヒメアマツバメに利用されてしまった。

なお、調査を担当した会員は次のとおりです。

- ① 川口川流域・・・小 沢 憲 雄
- ② 北浅川流域・・・三 好 恒 雄
- ③ 城山川流域・・・木 村 晴 美
- ④ 南浅川流域・・・榛 沢 努、川 上 志
- ⑤ 浅川本流域・・・斎 藤 高 昭、門 口 一 雄
- ⑥ 山田川流域・・・斎 藤 高 昭
- ⑦ 湯殿川流域・・・門 口 一 雄

平成1年 浅川流域イワツバメ営巣数調査結果

水系別	営巣場所	昭和62年	昭和63年	平成1年
川口川流域	市立清水小学校 A	4	4	0
	市立陶 小学校 A	-	1	0
	市立川口児童館 A	-	加外不能	2
	市立橋原中学校 A	-	人工破壊	5
北浅川流域	北浅川中央高速橋 B	17	30	34
	市立第二中学校 A	-	16	2
	シンワ(株) A	-	9	5
城山川流域	無し			
南浅川流域	京王高尾山口駅 C	6	7	6
	京王高尾駅 C	16	5	5
	東浅川沖電気前 C	20	5	2
	南浅川東横山橋 B	6	8	5
	八王子工高体育館 A			5
浅川本流域	萩原橋 B	0	2	0
	暁橋 B	0	14	42
	大和田橋 B	69	60	39
	北野清掃工場 A	人工破壊	人工破壊	6
	ヤジマ生コン工場 A	25	営巣後放棄	0
	長沼橋 B	0	0	0
	平山中学校 A	-	3	6
	16号片倉台付近	加外不能	0	0
	一番橋 B	1	0	0
高幡橋 B	1	0	0	
山田川流域	JR八王子駅 D	50	92	45
湯殿川流域	北野ハケシタビル A	1	6	9
	西田中橋 B	-	加外不能	0
	東橋 B			1
計	営巣ヶ所数	14(13)	20(17)	17
	営巣数	210	262	219

注 1. Aはコンクリート建物、Bはコンクリート道路橋、Cはコンクリート鉄道高架下、Dは鉄製デッキプレート橋上駅下を示している。

2. 計欄の()内は実際の営巣ヶ所数である。

3. 5月から7月の間に2回カウントし、その内多かった方を取り上げている。

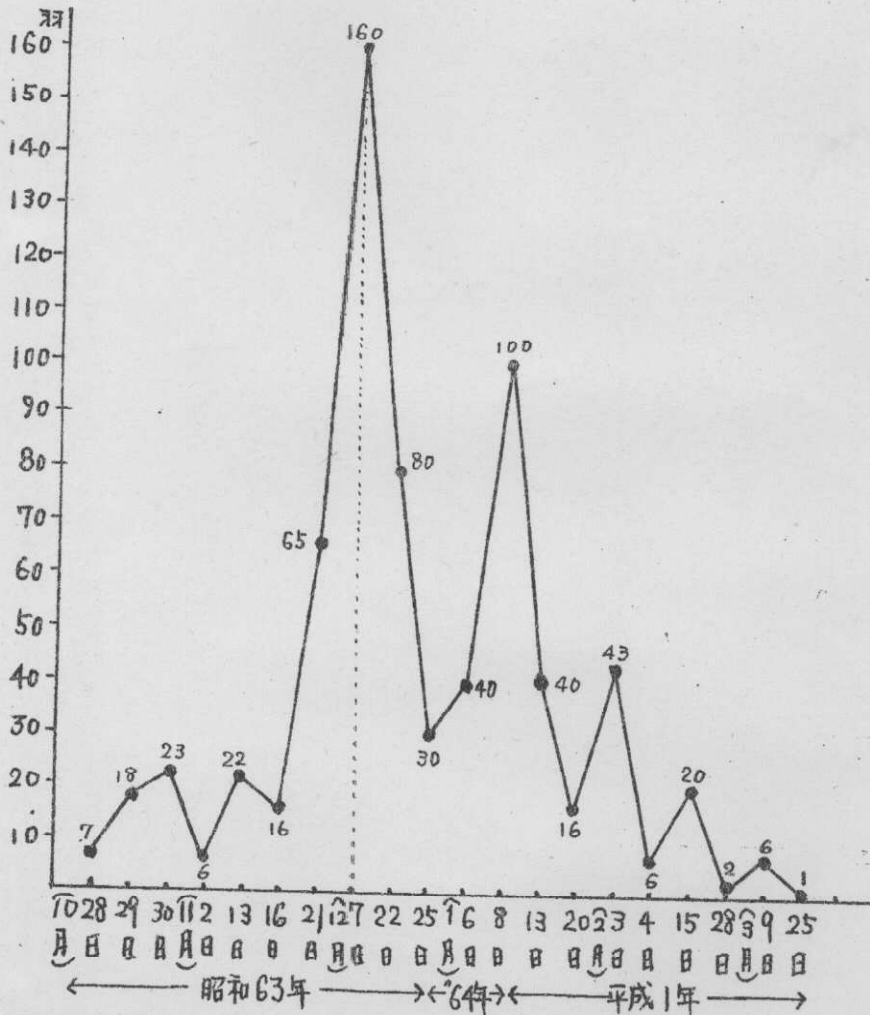
昭和最後の浅川のユリカモメ

(浅川に来るユリカモメの飛来数調査結果)

多摩川の河口方面から毎朝登って来るユリカモメの数を、会員の小山万太郎さんが昨シーズン、毎日、又は数日おきにカウントしました。

場所は浅川大橋を中心におおむね大和田橋から暁橋の範囲で、ユリカモメはここよりさらに上流にも行きますが、この辺りの水面に降りるものが最も多いようです。

調査結果は下図のとおりで、63年12月7日の160羽が最高飛来数、日々の変化が大変激しいことがよく分かりますね。



あなたは何種の鳥を見ましたか

——私は1年間で151種を達成しました——

粕谷和夫

昨年1年間で何種の鳥を見たか！

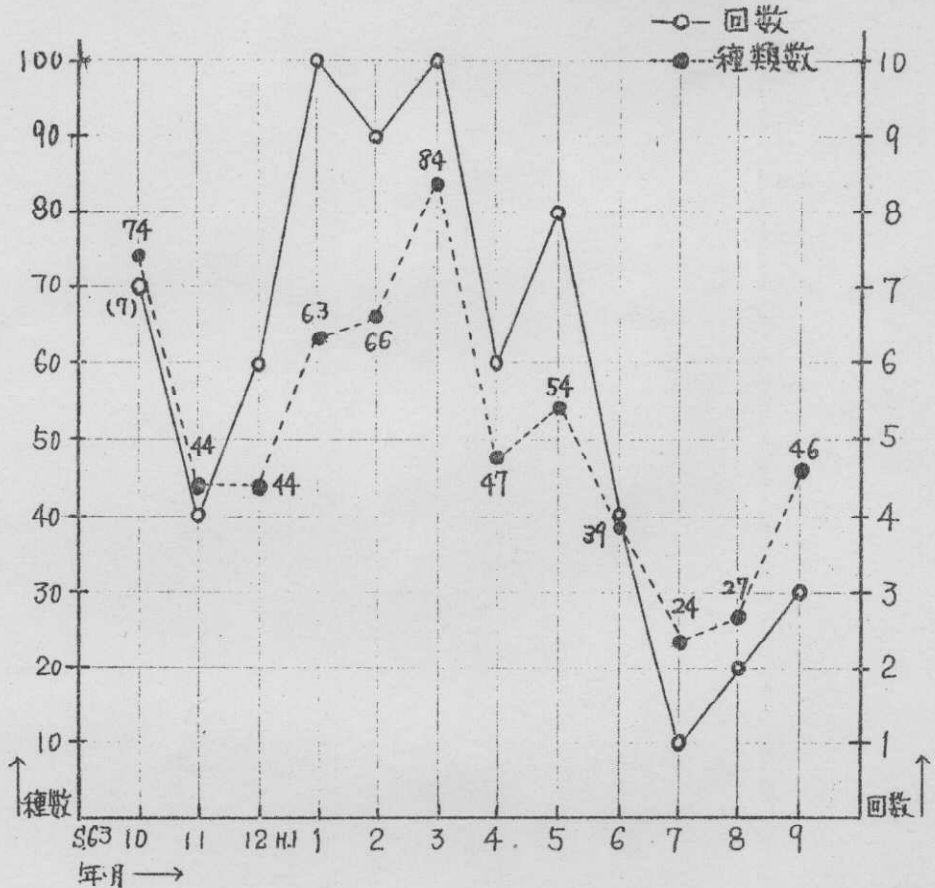
私の場合、昭和63年10月から平成1年9月までの1年間について、バードウォッチングの野帳を整理してみたら、151種になりました。

これを月別にみると、次図のとおりです。この図で分かる通り、バードウォッチングに行った回数と見た鳥の種類数はほぼ比例します。

見た鳥の種類を増やす為には、バードウォッチングの回数や場所を増やせば良いという単純な結論になります。

私の場合、昨年7月までは名古屋に単身赴任中だったので、これだけの回数と種類を稼ぐことが出来たわけです。唯、7月は転勤さわぎで1回しか行くことが出来ませんでした。なお、ベスト10についても次表の通り整理してみました。

〈月別バードウォッチング回数、見た野鳥の種類数〉



〈1年間のバードウォッチングライフ・ベスト10〉

自昭和63年10月—至平成1年9月

- (1) 白山山麓で、イヌワシとハギマシコを見る [1. 3月]
- (2) 伊良湖岬で、サシバの渡りとハヤブサのヒヨドリ捕獲を見る [63. 10月]
- (3) 鳳来寺山で、アカショウビンに出会う [1. 6月]
- (4) 富士山5合目奥庭で、キクイタダキ、ウソを真近に見る [1. 7月]
- (5) 庄内川(名古屋市)河口で、ツクシガモとズグロカモメを見る [1. 2月]
- (6) 河北潟(石川県)で、チュウヒとハイイロチュウヒを見る [1. 3月]
- (7) 榎斐川(岐阜県・養老町)で、ツグミのバフ変を発見 [1. 2月]
- (8) 浅川(八王子市)で、ミコアイサとアメリカヒドリを初認 [1. 1月]
- (9) 渥美汐川干潟(愛知県)で、ウミアイサ、ホオジロガモ、オオハクチョウを見る [1. 2月]
- (10) 尾鷲(三重県)で、越冬するイワツバメとアオサギのコロニーを見る [1. 3月]

※ この期間に出掛けて行ったが、残念ながら発見できなかった鳥

- (1) 岐阜県、川島町の本曾川にコウライアイサを見に行ったが発見できず [1. 2月]
- (2) 三重県、南島町にコウノトリを見に行ったが発見できず [63. 12月]

さあ、皆さんも 去年1年間で

何種の鳥を見ましたか

ベスト10は何でしたか！

ジャコウアゲハの親子

——平成1年8月13日真夏の浅川探鳥会例会の記録——

8月の浅川の主役は、なんといってもキアシシギ、この日も15羽を数えることができた。ピュイー、ピュイーという涼しげな声を聞くと、いくら暑くても、暑さを忘れさせられてしまうので不思議である。ゴイサギが29羽も出た。幼鳥が多い。以前はJR中央線鉄橋取付上流側の左岸の林に多くいたが、ここの林が宅地開発で切り開かれてしまった。誠に残念である。この為ゴイサギは長沼橋上流側の左岸に移ってしまった。ここのサワグルミの木の中に20羽近くが潜んでいたのである。長沼橋上流側左岸の一帯は浅川に残された野鳥達の最後の安住地となってしまった。

ここに開発の手（建設省の河川改修工事も含めて）が及ばず、何時までもこのままの状態であって欲しいものだ。

この日に観察された野鳥の種類は全部で27種。夏としては予想より多く出た。

この日は、探鳥の他にもう一つの探蝶を行った。夏の浅川にはどのような蝶がいるか。アゲハチョウ、キアゲハ、アオスジアゲハ、ジャコウアゲハ、キタテハ、モンシロチョウ、キチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、セセリチョウの一種（チャバネ又はダイミョウ）の計10種出た。

中でも圧巻だったのがジャコウアゲハ。ヒルガオのようなツルの草が金網に巻き着いており、そのツルにとっても変わった花が着いていたので不思議そうに眺めていると、会員の井上さんが、これはジャコウアゲハの食草で、ウマノズクサと云い、さっきこの近くで♂の成蝶が飛んでいたと教えてくれた。幼蝶も必ずいるはずだとも・・・その眼であたりを見たら、先ず♂の成蝶が飛んで来た。

改めて草の方を覗くと、もうかなり大きくなった幼虫がいるではないか。一匹、二匹、三匹、敵に襲われると、触角付近からオレンジ色の液体を出し、これがジャコウの匂いとか・・・手でつついてみると、成程出てきた。オレンジ色の液体。誰か写真を撮っておいてくれないか。会員の川上さんが写してくれた。

この幼虫よ、来年立派な成蝶になってくれ！

文責：粕谷 和夫

多摩川河口探鳥会

——平成1年9月15日・小島新田にて——

東京都内でも八王子市というと、海から離れており、むしろ山に近い所で、多摩川支流の浅川が街の中を西から東へ流れている盆地です。

従って、海辺や河口の野鳥を観察するには、遠方へ出掛けることになり、なかなか機会を持てません。カワセミ会の探鳥行事でも年1~2回行っただけです。日頃からシギ、チドリ、の観察、勉強をしたいという気持ちが皆強く、当探鳥会には18名の会員が参加しました。

朝6時近く一行はJR八王子駅に集合し、横浜線、京浜急行線と乗り継いで、多摩川の河口、羽田空港前の小島新田の堤防に8時半近く到着。

青く晴れ上がった空から太陽がキラキラと照りつける中、午後1時過ぎまで、シャツ1枚になり汗をかきかき観察をしました。

たまに来て、形、色彩等、遠くにいる鳥達を見分けるのは中々むずかしく苦労しましたが、皆熱心に観察しました。

たまたま、日本野鳥の会、東京支部の幹事である前島重利さんが、現場に来られ、ダイゼンとムナグロの見分け方など、いろいろご指導をいただき大いに得るところがありました。

終って一同冷たいビール等を飲みながら昼食をし、和気あいあいのうちに今日の成果を話し、午後3時過ぎ帰途につきました。

来年も又勉強に行きましょう・・・

：認めた鳥：

キジバト、シジュウカラ、カワラヒワ、キアシシギ、メダイチドリ、シロチドリ、ダイサギ、ウミネコ、オオソリハシシギ、アジサシ、ダイゼン、ムナグロ、ソリハシシギ、アオアシシギ、コサギ、カワウ、トビ、カワセミ、アオサギ、オナガガモ、カルガモ、カイツブリ、スズメ、ユリカモメ、セグロセキレイ、ツバメ、ハクセキレイ、イソシギ、ハシボソカラス、スズメ、セッカ、ドバト、以上32。

『 カワセミ会年次総会でオークション実施が決まる！』

○総会への全員参加意識を高め○楽しい総会とし○売上金を会の運営の一部に、という趣旨で、会員相互に鳥に関する品を持ち寄り、オークションを開くことが、幹事会で決まりました。実施細則など別にお知らせいたしますので、皆さんの参加を今から楽しみにしております。

宿泊（テント）探鳥会

（平成1年9月23日～24日）

今井達郎

テントで泊り、早朝の探鳥を実施する計画は、秋分の日と翌日曜にかけて行うこととなり、午後2時、粕谷会長宅に集合して、目的地の多摩川の河原（滝山水管橋下）に向かう。天気予報は「曇り一時雨」で、雲は厚かった。

テントは粕谷会長と門口さんが、それぞれ個人で購入した大型の新品で、梱包を解き、試行錯誤を繰り返しながら組み立てる。

空を見上げるとアマツバメが10数羽乱舞し、小雨がポツポツ落ちて来た。テントは他に探鳥用の迷彩テント（荷物置場とする）と藤江さんの一人用が張られて、一寸したテント村になる。

夕食は、山形県で盛んな「芋煮会」の大鍋に、今朝、福島県の小名浜から届いたサンマの炭火焼がメイン・ディッシュ……

酒宴が始まる頃から雨が激しくなって来たが、テントの中では、バードウォッチングと鳥の写真撮影は両立するかどうかの議論に熱が入る。ガスランプとローソクの明かりの下で、飲み且つ語る間に殆ど平らげて寝袋に入る。

：この2日間で認めた鳥は、下記の30種でした。

コサギ、アオサギ、カイツブリ、カルガモ、トビ、チョウゲンボウ、キジ、コジュケイ、イソシギ、カワセミ、セグロセキレイ、キセキレイ、ヒバリ、ツバメ、アマツバメ、イワツバメ、オオヨシキリ、ヒヨドリ、ムクドリ、モズ、ノビタキ、ホオジロ、シジュウカラ、カワラヒワ、ハシブトカラス、ハシボソカラス、スズメ、キジバト、ドバト、アヒル、

：参加者：

粕谷、藤江、榎沢、門口、平沢、川上、福島、太田、今井、三好（翌朝参加）

我が家の庭に珍客が訪づれた

——八王子市散田町の会員井上巳知雄さんからのお便り——

今日は、いつもカワセミ会ではお世話になります。実は我が家に珍客がありました。

10月15日午前11時頃、自宅東側の空地に「アリスイ」が来たのです。発見の様子はこうだったのです。妻が外を見ながら電話していると、何やらスズメ位の大きさで、一寸変わった鳥がいると娘に話し、私は庭先で春咲きの球根を植えている時でした。珍しい鳥がいると呼びに来たのです。

それから何とあわただしかった事か……その場に飛んで行き肉眼で見るとスズメではない、そうだ、写真でしか見た事のない「アリスイ」だと直感

した。双眼鏡を取ってもらい、観察すると、確かにそうだ、薄茶色した鳥で、目の所に線があり、喉には縞々、背中には黒い線があり、まさしく「アリスイ」でした。

直径30cm位の松の倒木にアリを食べに来て、一休みしている様子です。なかなか飛び立とうとしないので、それでは写真を撮ろうと思いカメラをセットしました。興奮気味でしたが、いろいろ角度を変えたりして写真を撮りました。

しばらくすると、その場から20m離れた栗の木に飛んでいきました。もうこれで終りかと思ったが、しばらくして元の場所を見ると、また来ていてアリを探している様子でした。

我が家にしたら、とても珍しい鳥で、楽しいルンルン気分の日でした。写真も同封しましたので参考までに見て下さい。 先ずは連絡まで。

※ 早速、編集子が開封すると、まぎれもなく「アリスイ」です。

粕谷会長へ写真を届けました。それにしても羨ましいかぎりですね！

☞ 続いてお便りをお読み下さい。...

△ 会報「カワセミ」を知って

根本 照代

ある機会があり粕谷様より、八王子カワセミ会の会報誌を、創刊号から3冊もいただいて、楽しく読ませて戴きました。

思えば、私が八王子市に渋谷から引越して来たのは18年前、この館町の自然の豊富さに引かれてのことでした。館町と言っても広いので、高尾駅から近い所もありますが、ここ館町団地は少し遠く、周囲が緑の森で囲まれ、近くの小川では、当時、カニをとりフナを釣って楽しむこともできました。今でも春になれば、小さな子供達がバケツやザルを持って、下半身どろんこになりながら、田んぼや川で遊んでいます。

私の家は住宅地のはずれにあり、小高い丘陵地の山の重なりを窓から眺めることもでき、敷地の続きも、くぬぎ林になっているので、自然を十分味わうことができます。子鳥達も多く訪れます。庭の富士桜の花びらを、一枚また一枚とついぼんでいる鳥をみつけた時は、私の目からみると風流

にみえて、春の一日を一層楽しいものにしてくれたことを思い出します。今年の秋には「紫式部」の小さな枝にやっと足をとめながら、紫色の実をついばんでいる小鳥もいました。また春から夏の7月頃まで、ウグイスの美しい「さえずり」を聞くことができ、とてもすがすがしい気分にしてくれます。いつか山を散歩した時、竹ヤブの中で巣をみつけた時は、またまた感動をしたものです。まさか、こんな身近な所に「住み家」があったなんて！！と。

その他、「チョットコイ、チョットコイ」と呼んでいるように鳴くのは「コジュケイ」ですか？ またキツツキの声も聞かれます。5～6年前迄はヤブの中を走りまわるウズラの群れを見ることもでき、家に居るだけで結構鳥達に出会え、この自然に感謝しているところです。

私と鳥達の出会いについて、一気に思い出すまま書いてしまいましたがカワセミ会の皆様が野鳥を愛し、残された自然を大切に思っいらっしゃる気持は、私も同感です。

しばし、仕事のことを忘れ、心安らかに過ごす環境を、東京の中に沢山とり戻せたら良いなと何時も考えています。

「カワセミ」会の会員の皆様の心が更に市民の多くの人に伝わるように願っております。

会報誌からは、皆様の優しい心が伝わってきます。カットも素敵です。私も暇ができましたら、参加させて下さいますようお願い致します。どうもありがとうございました。

：粕谷会長の談話：

「根本様は、東京都主催の作文コンクールで、多摩川の上流から河口までを、自然を生かした公園にすべしという提案を行って、これが認められ、都知事賞を受賞された方で、去る平成元年9月に発行のアサヒタウンズに、このことが大きく取り上げられています」

八王子市の市民に、愛され、親しまれる

市の鳥の制定を広く呼びかけましょう！

浅川になんとハヤブサが来た

(平成元年10月8日浅川探鳥会例会の記録)

当日は時々小雨がパラツクという天気でしたが、久しぶりに28名と多くの参加者となり、認めた鳥の種類も34種と満足できる探鳥会でした。

この日のベストは、①ハヤブサ、②クロトキ、③ノビタキ、④アマサギの4種です。

ハヤブサがなんと、浅川右岸の八王子市明神町に立つNTT電波塔の最上部のパラボラアンテナに1羽とまっていた。

フィールドスコープで覗くと、頬の「もみあげ」、胸の黒斑がよく見えます。丁度この時季、この付近はヒヨドリの群れが南に向かって渡っており、それを待ち伏せしているのではないかと思います。

それにしても、八王子市内の町中でハヤブサが見られるとは・・・・・・クロトキは2羽で、共に足環をつけており、多摩動物園から飛んで来たものでJR中央線鉄橋下流側の流れの所に降りていましたが、11時頃下流の方向に飛んでいきました。

アマサギは1羽で、羽にアマ色は無く、白い冬羽になっていましたが、河原の草叢の中で一生懸命虫を捕らえていました(大和田橋～長沼橋間)。

文責：粕谷一夫

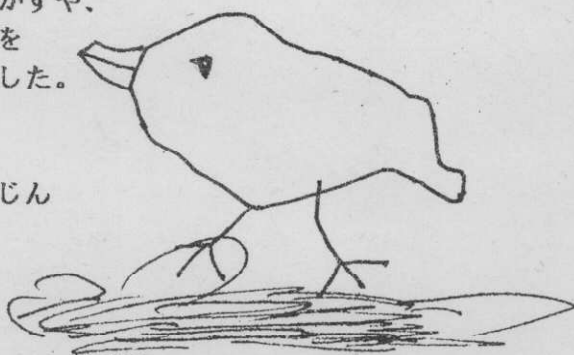
- ◎ 次の感想文とカットは、この日立川市から参加した小学校1年生の寺沢裕仁君の作品です。

10月8日、きょうは、たんちょうかいにいて、こさぎと
だいさぎと、いそしぎや、いろんなとりや、はなをみて、
いろんなところをあるいたり、いしではしをつくってかわを
わたったりして、おもしろかった。

それから、とりのかずや、
しゅるいのなまえを
おしえてもらいました。

1-3

てらさわ ゆうじん



伊豆沼探鳥紀行

伊豆沼と云えば、日本でも有数のガンの飛来地であり、バードウォッチングをやる人なら是非一度は行ってみたい探鳥地です。

我々カワセミ会でも、このたび有志で、去る平成1年11月25日から1泊で出掛けました。

11月25日(土)、朝6時 粕谷会長宅を3台の車に分乗して出発した一行は、中央高速道から都内を抜け、東北高速道に入り、約500kmに及ぶ道程を、途中休憩を2回して、一路伊豆沼に向け突っ走ること約7時間、宮城県の築館I.Cで下り、午後2時近く伊豆沼に到着しました。

早速、沼の獅子鼻という地点で、マガン、オオハクチョウ、コハクチョウ達にお目にかかり、南岸新田に移って夕方暗くなるまで観察し、東北本線の新田という駅の前のK旅館に入りました。

昔、松尾芭蕉も奥の細道紀行の際泊まったかと思われる風情というか、情緒に溢れた?旅館・・・失礼!旅館でありました。

内儀さんの東北弁のサービスもあり一同心ゆくまで歓談の一夜を過ごしました。

11月26日(日)、未明 旅館の建物が激しく横揺れし、さては地震かと寝ている一同の殆どが眼を覚ましたのが午前4時半ごろ・・・(実は貨物列車が通過する震動でありましたが!)

午前5時 辺りは未だ夜の闇に包まれている中を、獅子の鼻の探鳥地点へと車を走らせました。

この地点は、太陽を正面にしてガンが飛立つところを観察する最適の場所とのことで、望遠レンズをセットした大勢の写真家達や観察者達が、待機しておりました。

手足の先が痛く感覚が失われていくような寒気の中で、日の出を待ちます。

やがて、沼の遙か彼方の丘陵と森の陵線が明かる味を見せ、暗い空と大地が白白となりはじめると、ぎらぎらとした陽炎が立ち昇り真紅というよりも濃いオレンジ色とでも云うような太陽が顔をだしました。宇宙を支配する神の出現とでもいうべき荘厳な姿に闇の世界が追いやられていく情景は、思わず歓喜の声をあげて見入りました。

明るくなった沼に目を移すと、無数とも思えるガンの群れが、朝日を背にして大きな黒い固まりとなって浮かびあがっております。

午前6時50分 鳴声があがり、大きな太陽を背にして、ガンが一斉に飛び立ち始めました。

ケアー・・・という鳴き声とザーという羽ばたきが湧き起こり、何百羽、何千羽か、数え切れないガン（主にマガン）が空中に舞上がると、それぞれに群れを作って四方に飛び散って行きます。

午前6時58分、沼に残った全てのガンが一齐に飛び立ちました。大きな太陽を背景にしてあかね色に染まった空に描かれたシルエットは思わず見る人をして感動とため息となり、興奮のルツボと化してしまいました。一旦、旅館に引き返して朝食をとり、9時近く宿を引き払った我々は、伊豆沼の観察舎に廻り、今度はガンの沼への飛来を観察しました。

午前9時40分頃、遙か彼方の空にゴマ粒をばらまいたようなガンの群れが双眼鏡に入ると、やがて10羽、20羽、何十羽と集団を作って沼に向かってやってきます。いわゆる雁行というやつで、典型的なV字型の他、なかにはW型、L型等、思い思いの編隊を組み観察舎の右前方200m位の沼に鳴き声をあげながら降り立ちます。

左右、前方の彼方の上空にポツンと点のようなものが見えると、それが後から後から引きも切らずに沼に向かって雁行してきます。

我々の年配者の仲間の一人が「戦争中のアメリカ戦闘機の飛来のようなな」とつぶやくのを聞き、かく云う筆者も思わずうなずいてしまいました。夜明けのガンの飛立ちの感動的シーンと共に伊豆沼のガンの観察を心ゆくまで堪能し、途中、蕪栗沼に立ち寄り午後2時過ぎ一路帰途につきました。

：認めた鳥（25日～26日）：

オオハクチョウ、コハクチョウ、マガン、シジュウカラガン、オオバン、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、スズガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、オナガガモ、オカヨシガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カルガモ、ヨシガモ、カイツブリ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、アオジ、ホオジロ、シジュウカラ、ジョウビタキ、カシラダカ、エナガ、カワラヒワ、ツグミ、タヒバリ、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、モズ、トビ、ハクセキレイ、アカゲラ、ハヤブサ、チュウヒ、オオタカ、ルリビタキ、ハシボソカラス、ハシブトカラス、ユリカモメ、スズメ、（以上47種）

：観察行程：

25日 獅子鼻 2～2:15 pm, 南岸新田 2:50～5 pm.

26日 獅子鼻 5:30～7:20 am, 内沼 7:45～8:10 am
伊豆沼観察舎－蕪栗沼 9:15 am～12:30 pm.

私のヨーロッパ紀行「鳥について」

平 沢 辰 夫

今度の旅は、西ドイツの古城街道からバイエルン地方、チロル、スイスアルプスと、いはゆる田舎と山岳地帯というコースであったので、普通の観光に加えて、「鳥」への関心と眼が大きな割合で私の内にあった。というのもカワセミ会に入っていた賜物と思っている。

スケジュールびっしりのツアー旅行であり、一人で勝手に探鳥などしていることなど出来る筈もないだけに、所定の観光の際や、移動の道すがら鳥への関心を持ち続けて観察を続けることは、楽しくも又忙しいことではあった。

「野鳥と人間との距離が文化度の一つのバロメーター」という言葉は、どこかで知っていたことであるが、この旅で先ずそれが強く感じたことの一つであった。

フランクフルトからローザンヌ迄のバス走行1500kmの間、どこでもいつも身近で、なんとも言えぬ美声でさえずってくれた真黒な体に黄色いくちばしのアムゼルという鳥（大きさは鳩位と椋鳥位のと二種とみた）や大自然の中の川や湖で、子連れの水鴨や白鳥が、人から逃げるといことなしに悠々と泳いでいたり、手の届きそうなところでカイツブリが潜水を繰り返していたり、公園のベンチで休んでいる私達の足先の水溜りで、水浴びをしている雀（一寸羽の色が違う）の姿などに接して本当にうれしくなってしまったものだ。

自然の中のコースということもあって鳥の姿は多く見られたが、中でもオーストリアのインスブルックは鳥との関わりが大きなところで、土産物などにも珍鳥の剥製から木彫りや焼物、高価なチロリアンカットのクリスタル細工に迄、鳥があふれている。

冬季オリンピックで有名なジャンプ台の山で、美しいヒタキ科の群れを身近に見られたことも印象に残っている。

最後のパリでの朝、二時間程早く起きて一人でシャンジェリゼ通りからセーヌ河畔、エッフェル塔下の公園などを歩いて、バードウォッチングと酒落てみたが、セーヌ川の汚れに失望しただけで、大した成果は得られなかった。

ツバメの渡り

平成元年10月15日(日)、天気 晴、時間 11時-12時
場所：多摩川 関戸橋下~大栗川合流点辺り

天高く澄み渡り、この秋一番と思われるすがすがしい朝、多摩川の上空を飛び回るオレンジ色の腰をしたコシアカツバメを見つける。渡り遅れかそれともこの辺りの越冬ツバメだろうと思いながら川下へと足を進める。

関戸橋を少し下った所で、あまりにもツバメが多いのに気がついた。

大栗川の合流点近くで、これがツバメの渡りだと長老のバードウォッチャーから聞き双眼鏡をむける。

コシアカツバメに混じって、ジュツ、ジュツと鳴き、せわしくはばたき飛び回るイワツバメ、遙か上空で、鎌のような翼を広げている、ヒメアマツバメが見える。まとまりのない群れをつくり、行きつ戻りつしながら、川下へと向かっている。

他にショウドウツバメ、アマツバメもいると聞いたが、動きが速いので確認が出来ないうちに通過していく。

一群を見送り、一息つく間もなく又別の群れが現れる。

この渡りは、昨日も見られたそうだ。

夏、北アルプスの岩場で夕日をいっぱいに向けて飛び駆っていたアマツバメ、紅葉の会津駒が岳で見たイワツバメ、故郷の小さな町の空を飛び回っていたツバメ達もいるのだろうか。

この群れは、この先の小さな山に発生する上昇気流に乗って、渡って行くのだそうだ。

これからの数千キロメートルの長旅、無事目的地に着き、来春には再び夫婦連れだって帰って来て欲しいと願っている。

追 伸

10月21日(土) 晴天 無風 9時~11時

場 所 多摩川中流の滝山下(八王子市高月町先)

10数羽のツバメの群れが、川下に向かって渡って行くのを見た。

イワツバメ、ツバメ、アマツバメの群れ5組を確認する。

門 口 一 雄

チョツピリ覚えました?

田中英吉

私が八王子カワセミ会に藤江さんに紹介でお世話になって早、2年がたちました。

スズメ、カラス、ハトが区別できれば、誰でも直ぐに鳥の名前が覚えられとの新聞記事に力を得て、入会させていただいたわけです。

最初の探鳥会に参加したのは、昭和63年1月の御岳山探鳥会です。買ったばかりの双眼鏡を手に、皆さんの後からついて行きました。何処に鳥がいるやらサッパリ分からず、同行の先輩諸氏が「アッ、あの声は何々だ」と鳴き声で鳥の名前を云うのを聞いて、ビックリするばかりでした。

昼食の時、「アッ、ウソだ」と云う声、まさか鳥の名前とは知らず、何を言っているのかと思いました。だが、指を指すその先に、1羽の綺麗な鳥がさかんに新芽らしいものをついばんでいます。それが野鳥を見た最初の瞬間でした。何時までも飛んで行かず、ゆっくりと観察することが出来ました。

あの光景は、今でもハッキリ目の前に浮かんできます。その他に色々の鳥を教わったのですが、全く覚えていません。

どうしたら鳥の名前を早く覚えられるのだろうか、聞きました。「それは、何回も何回も見ること」と、三好さんの言葉。以来、機会があるごとに実行しております。

昨年11月の快晴の或る日、家内と一緒に聖蹟桜ヶ丘駅から多摩川をミニバード・ウォッチングしまして、23種を見ました。

他にもいたのですが、指導者が同行しなくて、これだけ判ればと自己満足しております。

いま、「浅川の鳥の見分け方」50種のうち、37種だけ判るようになりましたが、今年中に全部覚えるように努力している今日此頃です。

浅川の野鳥展開催決定

来る4月29日(緑の日)に、八王子市横山町の三角広場(放射線通り)に於いて開催することになり、実行委員会が結成され、その準備に入りました。詳細は追ってお知らせいたしますが、当会会員のボランティア活動として実施しますので、皆様方の御協力を是非お願いいたします。

・年末大晦日探鳥会

—1989年最終の美を飾るコクガンを観察—

当会恒例の大晦日探鳥会が、房総半島は野島崎の海岸で行われました。当日の参加者は8名、朝6時にJR八王子駅に集合した一行は、内房総線の館山駅で国鉄バスに乗り継ぎ、長尾橋に午前10時近く到着。

海岸沿いに野島崎まで往復しましたが、当地は温暖な地域と云われているとおり、当日はうららかな小春日和といった一日で、畑のここかしこに菜の花が咲き乱れ、暖かい日差しにセーターを脱ぐほどの陽気でした。静かな街の家々のたたずまいも、何となくのんびりとして、今日が大晦日だということを忘れてしまうほどでした。

ウグイスのサエズリも聞こえてきました。

さて、この日の圧巻は何といっても、コクガンを観察したことです。

野島崎手前の海中で、浜から僅か数10メートルの波間に1羽、セグロカモメ数羽の中に混って泳ぎ回り、海中の藻を食べている様子でした。望遠鏡はもとより双眼鏡でも、その姿をバッチリとらえることができます。

黒い首筋の白斑は、まぎれもなくコクガンです。

コクガンは数少ない冬鳥として、主に北日本に渡来しますが、局地的で青森県の陸奥湾や宮城県の大森湾等で観察されるそうですが、この辺りで観察されるのは、珍しいことだと思います。

天然記念物にも指定されております。

このような鳥にはめったにお目にかかれないと、一同しっかり観察をしました。

さて、1989年の最終の美を飾るにふさわしい探鳥会でありました。

：認めた鳥： 33種

：ベスト4： コクガン、クロサギ、イソヒヨドリ、
ウグイスのさえずり、

『 粕谷会長、東京都の緑の推進委員に！

「東京における自然の保護と回復に関する条件」に基づき、第9期（平成2年4月～4年3月）の緑の推進委員に、八王子市から粕谷会長が推薦されることになりました。

緑の推進委員の任務は、自然保護や緑化に関する活動を自主的に進めていくことで、その活躍が大いに期待されます。

餌台のヒヨに見られて昼の酒

昼酒などというものは、どことなくうしろめたいものである。
妻の居ない晩秋の寒い昼下がりに、独りのんびりと酒を楽しんでいて、ふと、庭先に目をやると、野鳥の餌台に一羽のヒヨドリが止まってこちらをジッと見ている。ニヤニヤ笑っている感じ……

鳥曇りツグミの群の落着かず

ツグミは渡りの時季が来ると、大群を作って春の黒雲を生む上昇気流に乗って、一気に海を渡るという。
四月の上旬のこと、滝山下の草原を埋めつくすようなツグミの大群を見た時の作句。
いつ思い出しても夢の中のような情景であった。

笹鳴きや隣も留守して居るらしき

恒雄

※ 編集子も一句、お付き合いさせていただきました。

編 集 後 記

☆ 編集後記をワープロで打ち終わった日は、朝から大雪でした。時々庭を見ると、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、メジロ、シジュウカラ達が餌台のまわりで、めまぐるしい餌の争奪戦をやっています。

いよいよ第4号の発刊にこぎつけました。

各位のご協力に感謝しながら、ホッとして雪見の酒に一人悦に入っていました。

☆ 第4号から表紙の絵が変わりました。

片桐さんのプロの腕前で、書いていただいたもので、素敵なデザインです。

ありがとうございます。

☆ 我々のホームグラウンドである浅川の堤防を歩いていると、そこかしこに犬の糞が落ちている。 小さなビニール袋と

スコップを持ち、犬を連れて歩いている人を見掛けるけれど糞の始末をしているのだろうか・・・・

土手に腰を下ろす時は注意してください（為念）。

☆ 去る日の探鳥会で、バードウォッチングと鳥の写真撮影は両立するかという議論がされたそうで、生憎編集子は参加しておらず結論を聞き漏らしましたが、一度公開討論会を開いてみるのも意義があると思いますが、如何・・・・

1990年 2月 カワセミ 第4号

発行人 粕谷和夫

編集人 三好恒雄 ㊦ 中野上町5-29-3



**Hachiōji
Kawasemikai**